

# 専攻科2年 令和8年度(2026)

## シラバス

Syllabus「シラバス」は、授業項目、講義案を意味します。この Syllabus には、皆さんが、今年度に学習する授業の科目名・単位数をはじめ、学習内容やねらい、評価規準等が書かれています。カリキュラムは、学習の積み上げを意識して、基礎分野、専門基礎分野、専門分野から構成されています。そして、社会の変化とともに看護師に求められている能力を養うために、各分野の教育内容を強化しています。

単位とは一定の質の勉学の量を、示す基準となるものです。単位数は保健師助産師看護師学校養成指定規則により、国家試験受験に必要な数が定められています。また、単位の計算方法は、高等学校の場合と異なり、専攻科においては大学設置基準第 21 条第2項および保健師助産師看護師学校養成所指定規則により、以下のように定められています。

単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法（講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか）に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位として単位数を計算するものとする。

一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。

二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができる。

つまり、1単位と計算される勉学の時間量には、教室(学校)内における勉学だけでなく、自主学習を含めて計算されることになっています。つまり、受け身ではなく、求められる教育内容を自ら学んでいかなければなりません。生涯学び続けることは、専門職には欠かせない要件です。1時間毎の授業を大切に、自主学習で確実な知識や思考力を身に付けてください。

令和7年度 入学生教育課程表

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校専攻科

教育内容	規定規則 単位数	授業科目	単位	時間	1年		2年		単位数 合計
					単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基盤	基礎科学	2	30	2	30			2
		統計学	2	30	2	30			2
	人間と生活・ 社会の理解	英語	6	90	4	60	2	30	6
		生涯スポーツ	1	30	1	30			1
		教育学	2	30			2	30	2
		心理学	2	30			2	30	2
		情報科学	1	30			1	30	1
	言語表現	2	30			2	30	2	
小計	10		18	300	9	150	9	150	18
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30			1
		解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30			1
		生化学	1	30	1	30			1
		微生物学	1	30	1	30			1
		病理学	1	30	1	30			1
		薬理学	1	30	1	30			1
		臨床栄養学	1	15	1	15			1
		疾病・治療論Ⅰ	1	25	1	25			1
		疾病・治療論Ⅱ	1	30	1	30			1
	疾病・治療論Ⅲ	1	30	1	30			1	
	健康支援と 社会保障制度	ヘルスプロモーション論	1	15			1	15	1
		公衆衛生	1	15			1	15	1
		社会保障制度	2	30			2	30	2
		看護関係法規	1	15			1	15	1
小計	14		15	355	10	280	5	75	15
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30			1
		看護過程	1	30	1	30			1
		フィジカルアセスメント	1	30	1	30			1
		基礎看護学演習	1	30	1	30			1
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論総論	1	30	1	30			1
		地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1	30			1	30	1
		地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1	30			1	30	1
		地域・在宅看護論方法論Ⅲ	1	30			1	30	1
		地域・在宅看護論方法論Ⅳ	1	15			1	15	1
	成人看護学	成人健康生活支援概論	1	30	1	30			1
		急性期看護論Ⅰ	1	30	1	30			1
		急性期看護論Ⅱ	1	30	1	30			1
		慢性疾患療養生活支援論	1	30	1	30			1
	老年看護学	老年健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
		老年健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
		老年健康生活支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	小児看護学	小児健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
		小児健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
		小児健康生活支援論Ⅲ	1	30	1	30			1
	母性看護学	女性のライフコース支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
		女性のライフコース支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
		女性のライフコース支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	精神看護学	精神健康生活支援論Ⅰ	1	15	1	15			1
精神健康生活支援論Ⅱ		1	30			1	30	1	
精神健康生活支援論Ⅲ		1	30			1	30	1	
精神健康生活支援論Ⅳ		1	15			1	15	1	
看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	1	15			1	15	1	
	看護の統合と実践Ⅱ	1	15			1	15	1	
	看護研究	1	30			1	30	1	
	統合ゼミ	1	30			1	30	1	
臨地実習	地域・在宅看護論実習	3	90			3	90	3	
	成人看護学実習Ⅰ	2	90	} 6	} 270	} 4	} 180	2	
	成人看護学実習Ⅱ	2	90					2	
	老年看護学実習	2	90					2	
	小児看護学実習	2	90					2	
	母性看護学実習	2	90					2	
	精神看護学実習	2	90					2	
看護統合実践実習	2	90	2						
小計	46		47	1545	23	765	24	780	47
合計	70		80	2200	42	1195	38	1005	80

教育内容	人間と生活・社会の理解	科目	英語	単位数(時間)	2単位(30時間)	学年	専攻科 2 年
科目の目標	看護・医療現場で求められる高度な医療専門用語や英語表現、コミュニケーションスキルを身につける。また、医療に関する英文を読む能力を養う。						
教科書	First Aid!English for Nursing(金星堂) 看護英会話入門第3版(医学書院)			評価方法	授業態度(参加度)、提出物、小テスト、定期考査、出席状況		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1	Unit 1 First Visit to a Hospital	来院時に案内する際の語彙や表現	<p>○授業で扱った事項を積極的に使い、コミュニケーションを取る。また、単語・熟語を身につけ会話などに生かしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>○国際的思考、感覚を身につけ、グローバルな視点から判断できる。(思考・判断・表現)</p> <p>○既知の情報をもとにスムーズに会話を進める技能を身につけている。(技能)</p> <p>○ナースが患者と接するときに必要な医療英語・表現を身につける。また、医療に関する英文を読むことができる。(知識・理解)</p>
2	Lesson16 Admission, The Patient's Room		
3	Unit 2 How to Fill in a Registration Form	初診受付時に必要な語彙や表現	
4	Lesson17 Stroke, Cardiac Pacemaker		
5	Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities	生活習慣を聞く	
6	Lesson 18 1st Morning Post-op,3rd Day Post-		
7	Unit 4 Mr. Brown's Symptoms	問診時に症状について尋ねる際の語彙や表現	
8	Lesson 19 Diabetes, Patient Teaching at Discharge		
9	Unit 5 Medical Checkup 1	脈拍、血圧、体重の測定の際の語彙や表現	
10	Lesson 20 Leg Fracture, Endocrine Disorder		
11	Unit 6 Medical Checkup 2	採血、採尿などの検査に必要な語彙や表現	
12	Lesson21-A Labor and Delivery		
13	Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis	診断結果の説明に必要な語彙や表現	
14	Lesson21-B Liver Disease		
15	Unit 8 Mr. Anderson's Symptoms	問診時により詳しく尋ねる際の語彙や表現	
16	Lesson22-A Pneumonia		
17	Unit 9 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms	症状をより詳しく尋ねる際の語彙や表現	
18	Lesson22-B Osteoporosis		
19	Unit 10 Explaining Blood Test Results	診断結果の説明に必要な語彙や表現	
20	Lesson23-A Care Designation		
21	Unit 11 How to Take Medicine	薬の服用の際の語彙や表現	
22	Lesson23-B Home Care-Dementia		
23	Unit 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy	問診時に患者の症状や原因を尋ねる語彙や表現	
24	Lesson24-A Home Care-Bath Service		
25	Unit 13 An MRI Test	MRI検査の説明で使う語彙や表現	
26	Lesson24-B Day Service		
27	Unit 14 Recommending an Operation	手術をすすめる際の検査や手術の説明で使う語彙や表現	
28	Lesson 25-A Health Maintenance Nursing Home		
29	Unit 15 Post-operative Care	術後の患者さんとの会話や表現	
30	Lesson25-B Long-Term CareNursing Home		

教育内容	人間と生活・ 社会の理解	科目	教育学	単位数 (時間)	2単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の 目標	教育に関する基礎的な知識、教育を構成する諸要素、教育の実践に必要な知識、現代教育に求められている新たな課題等について学ぶことにより、人間形成のあり方について認識を深める。また、このことにより、医療・看護職従事者として必要な「人間の成長に関する理解力」を高め学び続けることの重要性を深く認識することにより、質の高い専門職者として活動できる素地を養う。						
教科書	系統看護学講座 基礎分野 教育学 (医学書院)			評価 方法	授業への取り組み・提出物 定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	社会における看護と教育	人間の成長を支える仕組みを学ぶ	教育学に関心を持って取り組み、看護と教育の共通点が分かる。
3 4	教育の概念と子ども観	子ども観の形成と教育の意義の理解	子どもの権利の認識について理解できる。
5 6	社会変動と教育の組織化	社会の変容に伴う公教育化の過程	学校形成の必要性について理解できる。
7 8	教育の構成要素	育つ力と育てる立場のかわり	教育の主体について理解を深める。
9 10	教育の受け手の見まもり	養護の機能と過程	学校養護の必要性について理解している
11 12	「発達」の概念	教育による発達の理解	「発達」の概念を理解し、病児の発達を含めて考えている。
13 14	教育の営みの考察1	子どもが学び育つ場としての家庭・学校	学校と家庭の役割について知識を深めている。
15 16	教育の営みの考察2	学校に通うという意味の変化の理解	不登校をどうとらえるか社会情勢も把握した上で自分の考えが言える。
17 18	教育の目標と評価	評価の種類と目的	評価の開発と発展について考えている。
19 20	教育の専門性	専門性と専門職の理解	養護教諭の専門性を通じて、専門職の役割を理解できる。
21 22	教育の組織化	教育行政と学校運営	義務教育の場と教育参加について、学びを深めている。
23 24	現代教育の新たな課題1	キャリア教育・ジェンダー	キャリア教育の限界について、考えを深めている。
25 26	現代教育の新たな課題2	特別ニーズ教育とインクルーシブ教育	障害の種類と教育の態様について、自分の考えが言える。
27 28	現代教育の新たな課題3	シティズンシップ教育	政治的リテラシーの教育について、考えている。
29 30	現代教育の新たな課題4	生涯学習	看護師の生涯学習について知り、自らのこととして考えることができる。

教育内容	人間と生活・ 社会の理解	科目	心理学	単位数 (時間)	2単位 (30時間)	学年	専攻科2年
科目の 目標	人間の心や行動を理解するための心理学を学び、自己理解に役立てると共に患者の心理の理解や患者とその家族、職場の同僚などの人間関係を理解し、相手を思いやるコミュニケーションの取り方や信頼関係について考えを深める。						
教科書	系統看護学講座 基礎分野 心理学 (医学書院)			評価 方法	授業への取り組み 提出物(ノート・レポート) 小テスト 考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第1章 心理学とは	心理学で学ぶ内容を理解し、なぜ心理学を学ぶのか、心理学をどのように看護学に活かすのか分かる。	・興味関心をもって取り組んでいる。 ・心理学を学ぶ事で、自分や他者の理解が深まることを理解している。
3 4	第7章 性格とパーソナリティ	性格とは何かを学び、性格の特徴を理解する。	・性格の類型論や説く正論、構造論について分かる。 ・性格を測定する方法を知る。
5 6	エゴグラム	性格を測定するためのさまざまなツールについて知る。	・エゴグラムの測定方法が分かる。 ・自己分析ができる。
7 8	バームテスト	自分自身の事に関心を持ち、自分の性格を知る。	・バームテストの測定方法が分かる。 ・自己分析ができる。 ・看護にどう活かすか考えている。
9 10	第2章 感覚と知覚	人間の行動を理解するための基礎知識として、感覚と知覚の特徴を学ぶ。	・感覚と知覚の違いについて理解している。 ・感覚の種類とその適刺激、受容器が分かる。 ・錯覚の例を挙げることができる。
11 12	第3章 記憶	人間の行動を理解するための基礎知識として、記憶の特徴を学ぶ。	・記憶のプロセスを説明できる。 ・忘却の理論について説明できる。
13 14	第4章 思考・言語・知能	人間の行動を理解するための基礎知識として、思考・言語・知能の特徴を学ぶ。	・思考の特徴を理解している。 ・言語に関する障害について理解している。 ・知能検査の種類を把握している。
15 16	第5章 学習	人間の行動を理解するための基礎知識として、学習の特徴を学ぶ。	・学習の定義を理解している。 ・看護への活かし方を考えている。
17 18	第6章 感情と動機づけ	人間の行動を理解するための基礎知識として、感情と動機づけの特徴を学ぶ。	・感情の3要素を理解している。 ・感情のメカニズムを説明できる。 ・看護への活かし方を考えている。
19 20	第8章 社会と集団	人間の行動を理解するための基礎知識として、社会と集団の特徴を学ぶ。	・集団のしくみとはたらきを理解している。 ・リーダーとフォロワーの特徴と役割を理解している。
21 22	第9章 発達	人間の行動を理解するための基礎知識として、発達の特徴を学ぶ。	・乳幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢期それぞれの発達課題が言える。 ・他科目と関連付けている。
23 24	第10章 臨床心理	臨床心理について学び、患者理解を深める。	・ストレスと適応について理解している。 ・さまざまな心の問題について、精神看護と関連付けて学ぶ事ができている。
25 26	第11章 医療・看護と心理	医療者の心理について学び、メンタルヘルスにおけるセルフケア能力を高める。	・医療職の心理的特徴を理解している。 ・心理療法の種類と特徴が分かる。
27 28	コラージュ	心理療法を体験し、自己分析を深めるとともに、他者を理解する基礎的知識を習得する。	・コラージュ療法の方法が分かる。 ・自己分析ができる。 ・看護に活かす方法を考えている。
29 30	試験	知識の定着を図る	

教育内容	人間と生活・社会の理解	科目	情報科学	単位数(時間)	1単位(30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	「情報とは何か」を知り、その「いかし方」と「まもり方」の双方を学ぶ。 「情報」と「コミュニケーション」を、看護の実践や看護学に生かす方法を学ぶ。 ICTを看護に取り入れることの重要性を知り、現代の医療を支える能力を養う。						
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学(医学書院)			評価方法	授業への取り組み・提出物 レポート課題・グループ討議		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第1章 情報の定義と特徴 第2章 社会と情報	「情報」とは何かを学び、看護にとっての情報の意義を理解する。	・「情報」の特徴を理解し、看護にとっての情報の意義を述べるができる。
3 4	第10章 既存の情報の収集方法 第9章 コンピュータリテラシーとセキュリティ	文献検索の方法を知り、各自の看護研究につなげる。	・文献検索の方法がわかり、活用できる。 ・コンピュータを利用する際のリスクとその対処方法が分かる。
5 6	第13章 文字情報の整理	対象と目的に応じた文字情報の整理のポイントを理解する。	・ケースレポートや論文の書き方が分かる。 ・読み手が誰なのかを考えている。
7 8	第8章 個人情報の保護	医療・看護における個人情報と守秘義務についての基本的知識を習得し、専門職としての責務を理解する。	・個人情報の保護についての基礎的な知識を習得している。 ・看護研究において正しく個人情報を取り扱うことができる。
9 10	ワープロソフトの使い方①	ワープロソフトのさまざまな機能について学び、活用する。	・wordの文字入力、挿入、ページ設定などの機能を活用し、文書を作成できる。 ・wordの参考資料機能を活用できる。 ・webで担当教員とやり取りできる。 ・論文形式で文書を作成できる。
11 12	ワープロソフトの使い方②		
13 14	ワープロソフトの使い方③		
15 16	第14章 情報の発表とコミュニケーション	プレゼンテーションの構成を理解し、効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	・効果的なプレゼンテーションとは何かを説明できる。
17 18	プレゼンテーションソフトの使い方		・Power Point を活用し、プレゼンテーション資料を作成することができる。
19 20	第6章 情報倫理と医療	情報倫理について学ぶ。	・情報倫理に関心を示し、自分のこととしてとらえて考えている。
21 22	第7章 患者の権利と情報	患者の権利と自己決定について再確認し、理解を深める。	・医療や看護における情報の重要性について再認識し、患者の権利を尊重しようとしている。
23 24	演習：看護職としての情報倫理①	実際に起きた事例・事件などを分析して、具体的な対応方法を学ぶことで、看護職としての倫理観を養う。	・実際に起きた事例を自分のこととしてとらえ考えている。 ・なぜ起きたのか、詳しく分析できる。 ・具体的な対策を考えている。
25 26	演習：看護職としての情報倫理②		
27 28	演習：看護職としての情報倫理③	さまざまな事例を知ることで、知識の幅を広げる。	・他の事例に対して興味関心を示し、自分のこととしてとらえて意見を述べるができる。 ・卒後に活かす具体的な方法を考えている。 ・自分の倫理観が言える。
29 30	演習：看護職としての情報倫理④	他者の考えに触れることで、自分の倫理観を磨く。	

教育内容	人間と生活・ 社会の理解	科目	言語表現	単位数 (時間)	2単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の 目標	言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。						
教科書	国語表現（看護科で使用したもの）			評価 方法	授業への取り組み、小テスト、 提出物、定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	整った文を書く	整った文を書くために大切なことを学ぶ。	係り受けの関係や敬体・常体の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、適切な文を書く上での基礎的な知識を押さえられている。（知識・理解）
3 4	自己を表現する 1	自分の長所・短所を考え、自己を見つめる。	自己を分析し、効果的な表現で自己PRができる。（関心・意欲・態度）（書く力）
5 6	自己を表現する 2	看護科での学びを振り返り、自己の思いや考えを表現する。	事実や出来事を踏まえて、自己の思いや考えを適切に表現している。（書く力）
7 8	自己を表現する 3	自己の職業観を考え、将来の自分について文章にまとめる。	具体的な経験や事例を挙げて、学んだことや考えたことを筋道立てて述べ、将来のあるべき自分に引き寄せて書いている。（書く力）
9 10	小論文 1	小論文の構成を理解する。	原稿用紙の使い方を理解し、分かりやすい構成で客観的に意見を述べている。（書く力）
11 12	定期考査 I	学習内容の定着度を確認する。	国語に関する必要な知識及び技能を身につけ、的確な言語表現ができている。
13 14 15 16	小論文 2	反対意見を考慮して、意見を筋道立てて述べる。	反対意見を想定して書くことの意味を理解し意見を筋道立て述べている。（書く力）
17 18 19 20	小論文 3	文章の主旨や、資料から読み取ったことを踏まえて、自分の意見を明確に述べる。	大切な内容や情報を文章や資料から読み取り、それを踏まえて自分の意見を論理的に述べている。（読む力）（書く力）
21 22 23 24	討論	相手の意見を尊重しつつ、自分の意見を説得力を持って伝え、互いに考えを深める。	相手の意見を尊重しつつ、意見と根拠の繋がりを意識して討論ができている。（関心・意欲・態度）（話す・聞く力）
25 26 27 28	表現を楽しむ	俳句や短歌、エッセイなどの創作を通して自己を表現する。	見たことや感じたこと、考えたことを言葉を用い、表現技法も取り入れながら、自分ならではの世界を創り出し、形にすることを楽しむ。（関心・意欲・態度）（書く力）
29 30	定期考査 II	学習内容の定着度を確認する。	国語に関する必要な知識及び技能を身につけ、的確な言語表現ができている。

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	ヘルスプロモーション論	単位数 (時間)	1 単位 (15時間)	学年	専攻科 2 年
科目の 目標	保健・医療を統合的に把握し、医療の概念の変遷と仕組みについて理解する。 放射線医学の基礎知識を習得し、看護師としての役割を理解する。						
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院)			評価 方法	授業への取り組み・提出物 定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準	
1 2	【医療総論】 1. 現代医療の新たな課題 2. 現代医療の最前線	看護職として日々変わり行く医療の流れを捉え、対応できる視点を持つことを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマについて関心を持ち、自らのこととしてとらえ考えている。</li> <li>・知識に基づき、自分の考えを述べることができる。</li> <li>・医療全体を見る視点をもっている。</li> <li>・卒業後に活かせるよう、具体的に考えている。</li> </ul>	
3 4	3. 医療を見つめ直す新しい視点 4. 保健・医療・福祉の潮流			
5 6	【放射線医学】 第1章 画像診断と看護 第2章 X線診断			<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線医学に関心を持ち、積極的に授業に取り組んでいる。</li> <li>・X線診断、CT、MRI、核医学検査、IVR,血管造影について、その方法や看護を理解している。</li> </ul>
7 8	第3章 CT 第4章 MRI 第5章 超音波検査			
9 10	第6章 核医学検査 第7章 IVR・血管造影			
11 12	第8章 放射線治療総論 第9章 放射線治療と看護	放射線治療について学び、根拠に基づいた看護について理解している。		
13 14	第11章 放射線による障害と防護	放射線による障害を理解し、防護する方法を理解している。		
15	考査	知識の定着を図る。		

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	公衆衛生	単位数 (時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科 2年
科目の 目標	健康の保持・増進、疾病構造の変化や環境問題などの動向について理解する。						
教科書	シンプル衛生公衆衛生学 南江堂			評価 方法	出席状況 授業への取り組み 提出物(ノート・レポート)テスト 試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	Chapter 1 衛生学・公衆衛生学序論 Chapter 2 保険統計 Chapter 3 疫学	公衆衛生の考え方、歴史、生活環境の変化について学ぶ。集団の健康の程度を知るための方法、疫学調査の方法、各種の数値指標の計算法を理解させる。	公衆衛生の考え方、歴史、生活環境の変化について学び、公衆衛生看護を理解する。 集団の健康の程度を知るための方法、疫学調査の方法、各種の数値指標の計算法を理解する。
3 4	Chapter 4 疾病予防と健康管理 Chapter 5 主な疾病の予防	保健・医療制度や健康指針などの整備、社会環境に対するアプローチなど幅広い予防対策について理解させる。	保健・医療制度や健康指針などの整備、社会環境に対するアプローチなど幅広い予防対策について理解する。
5 6	Chapter 6 環境保健	地球環境問題への取り組みや生態系の中での人の健康について理解させる。	地球環境問題への取り組みや生態系の中での人の健康について理解する。
7 8	Chapter 7 地域保健と保健行政	一人ひとりがより健康になるための地域のあり方、各種保健活動について理解させる。	個人と地域とのダイナミックな関係、一人ひとりがより健康になるための地域のあり方、各種保健活動について理解する。
9 10	Chapter 8 母子保健 Chapter 9 学校保健 Chapter 10 産業保健	各分野の具体的な政策について理解させる。	各分野の特徴を理解し、その人らしく地域で生活していくための政策について理解できる。
11 12	Chapter 11 高齢者の保健・医療・介護 Chapter 12 精神保健 Chapter 13 国際保健医療	各分野の具体的な政策について理解させる。	各分野の特徴を理解し、その人らしく地域で生活していくための政策について理解できる。
13 14	Chapter 14 保健医療福祉の制度と法規	保健医療行政の概要や保健制度、医療制度などについて理解させる。	保健医療福祉に関する制度や法規について理解できる。
15	試験	これまでの講義内容について試験を行うことで、知識の定着を図る。	

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	社会福祉	単位数 (時間)	2単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の 目標	社会保障の理念と基本的な制度の考え方について学ぶ。 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会保険や社会福祉の制度について学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度（3）社会保 障・社会福祉（医学書院）			評価 方法	出席状況， 授業への取り組み， 小テスト， ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	社会保障制度と社会福祉	社会保障制度の理念や体系について知る。	社会保障制度の理念や体系について説明できる。
3 4	社会保険とは	社会保険の種類や用語について学ぶ。	社会保険の種類や用語について理解する。
5 6	医療保険について（75歳未満）	被用者保険について学ぶ。	被用者保険について理解する。
7 8	医療保険について（75歳未満）	国民健康保険について学ぶ。	国民健康保険について理解する。
9 10	医療保険について（75歳以上）	後期高齢者医療制度について学ぶ。	後期高齢者医療制度について理解する。
11 12	年金保険について	年金保険制度について学ぶ。	年金保険制度について理解する。
13 14	介護保険について	介護保険の制度や手続きについて知る。	介護保険の制度や手続きについて理解する。
15 16	介護保険について	介護保険の給付やサービスについて知る。	介護保険の給付やサービスについて理解する。
17 18	その他の社会保険と公的扶助	労働災害補償保険、雇用保険、公的扶助について知る。	労働災害補償保険、雇用保険、公的扶助について理解する。
19 20	社会福祉とは	社会福祉の理念や根拠となる法律について知る。	社会福祉の理念や根拠となる法律について理解する。
21 22	児童福祉について	児童福祉を行う機関や制度を知る。	児童福祉を行う機関や制度を理解する。
23 24	障害者福祉について	障害の捉え方や基本理念について知る。障害者総合支援法に基づいたサービスについて知る。	障害の捉え方や基本理念について理解する。障害者総合支援法に基づいたサービスについて理解する。
25 26	高齢者福祉について	高齢者世帯の現状や福祉サービスについて知る。	高齢者世帯の現状や福祉サービスについて理解する。
27 28	その他の福祉について	その他、高齢者や障害者・児童へのサポート制度について知る。	成年後見制度や日常生活支援事業、社会手当などについて理解する。
29 30	演習	国家試験の過去の問題を解いてみることによって授業の理解度を知る。	国家試験の過去の問題を解いてみることによって授業の理解度を知る。

教育内容	健康支援と 社会保障制度	科目	看護関係法規	単位数 (時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科 2年
科目の 目標	法規の概念を学び、保健医療福祉の諸制度の概要とそれを規定する諸法令についての理解をはかる。 法規の概念、看護領域に関係の深い法規について学び、関心をもつことができる。						
教科書	看護学テキストNiCE 看護関係法規 (南江堂)			評価 方法	授業への取り組み、提出物(ノート・レポート) 小テスト ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	法規の概念 看護活動に関する法律(医療法)	法について一般的、基本的事項について学び、医療提供体制の基本となる法・制度を理解させる。	法について一般的、基本的事項を知り、医療提供体制の基本となる法・制度を理解できる。
3 4	医療従事者の身分、業務に関する法・制度(医師法など)	医療従事者の身分、業務に関する法・制度について学ぶ。	医療従事者の身分、業務に関する法・制度を理解できる。
5 6	健康の保持増進に関する法・制度(健康増進法・環境基本法・食品衛生法など)	健康の保持増進に関する法・制度について学ぶ。	健康の保持増進に関する法・制度について理解できる。
7 8	地域で看護を提供する際に必要な法・制度(母子保健法・地域保健法・感染症法など)	地域で看護を提供する際に必要な法・制度について理解させる。	地域で看護を提供する際に必要な法・制度について理解できる。
9 10	疾病対策に関する法・制度(がん対策基本法・災害対策基本法など)	疾病対策に関する法・制度について理解させる。	疾病対策に関する法・制度について理解できる。
11 12	労働者として労働に関する法・制度(労働基準法など)	労働者として労働に関する法・制度について理解させる。	労働者として労働に関する法・制度について理解できる。
13 14	看護業務に関する法規について(保健師助産師看護師法など)	看護業務に関する法規について理解させる。	看護業務に関する法規について理解できる。
15	考查		

教育内容	地域・在宅看護論	科目	地域・在宅看護論方法論Ⅰ	単位数(時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	在宅看護の対象のレベルを理解し、適切な観察力、安全安楽な援助が行えるよう科学的根拠の基づいた看護技術を修得する。						
教科書	系統看護学講座 成人看護学 (12) 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 (15) 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			評価方法	出席状況・授業への取り組み・提出物・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2 3 4 5 6	<b>【皮膚科】</b> 皮膚の構造と機能 症状とその病態生理 検査と治療・処置	皮膚疾患やその治療を理解するために、皮膚と構造、症状、病態生理、検査を理解する。	皮膚疾患やその治療を理解するために、皮膚と構造、症状、病態生理、検査を理解している。
7 8 9 10 11 12 13 14	疾患の理解(湿疹皮膚炎症候群・蕁麻疹・湿疹・紅斑症) 疾患の理解(薬疹・悪性腫瘍・創傷の治癒) 疾患の理解(熱傷・褥瘡) 疾患の理解(感染症)	皮膚科疾患患者を看護するうえで必要な基礎知識を得るために、主な皮膚疾患のそれぞれの疾患・病型・治療法を理解する。	皮膚科疾患患者を看護するうえで必要な基礎知識を得るために、主な皮膚疾患のそれぞれの疾患・病型・治療法を理解している。
15 16 17 18 19 20	<b>【歯科】</b> 歯・口腔の構造と機能 口腔症状とその病態生理 検査と治療・処置	歯・口腔の構造と機能について学ぶ 歯・口腔疾患に伴う主な症状とその発生機序・病態生理について学ぶ 主な検査法の目的・意義・方法および適応疾患について学ぶ	歯・口腔の構造と機能について理解している 歯・口腔疾患に伴う主な症状とその発生機序・病態生理について理解している 主な検査法の目的・意義・方法および適応疾患について理解し看護に必要な知識を身に付けている。
21 22 23 24	疾患の理解 1 疾患の理解 2	歯科の2大疾患(齲蝕と歯周疾患)について、その原因・予防方法・病態・治療法を学ぶ 口腔領域および顎関節における主要疾患と治療法について学ぶ	主な歯・口腔疾患・顎関節疾患の病態を理解し、看護を行ううえで必要な基礎知識を身に付けている。
25 26 27 28	<b>【在宅援助論】</b> 在宅で求められる技術の応用 在宅で求められる看護技術	療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にみていくこと、また必要な介助を見きわめるための動作分析について学ぶ。 呼吸機能・食生活・排泄・移動・移乗・清潔・認知機能等に関して在宅で求められる看護技術について学ぶ。	療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にみていくこと、また必要な介助を見きわめるための動作分析について理解している。 呼吸機能・食生活・排泄・移動・移乗・清潔・認知機能等に関して在宅で求められる看護技術を身に付け、実践できる。
29 30	在宅における医療管理を要する人の看護	在宅において展開される医療技術とそれに伴う看護について学ぶ。	在宅において展開される医療技術とそれに伴う看護について理解し、実践できる。

教育内容	地域・在宅看護論	科目	地域・在宅看護論方法論Ⅱ (眼科・耳鼻科)	単位数 (時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	在宅看護の対象のレベルを理解し、適切な観察力、安全安楽な援助が行えるよう科学的根拠を元に看護技術を修得する。						
教科書	系統看護学講座 成人看護学 (13) 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 (14) 耳鼻咽喉 医学書院			評価方法	出席状況・授業への取り組み・ 提出物・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【眼科】 眼の構造と機能・症状とその病態生理	眼の構造と機能を学習し、眼科領域の主な症状や病態生理を学ぶ。	眼の構造と機能を学習し、眼科領域の主な症状や病態生理を理解している。
3 4	検査と治療・処置	検査内容を理解し、さまざまな検査の介助、適応疾患について学ぶ。	検査内容を理解し、さまざまな検査の介助、適応疾患について学び、必要な援助技術を身に付けている。
5 6	疾患の理解	眼科領域でみられる主な疾患について、機能の障害と部位別の障害に分けて体系的に学び、それぞれの治療方法について学習をする。	眼科領域でみられる主な疾患について、機能の障害と部位別の障害に分けて体系的に学び、それぞれの治療方法について理解している。
7 8	疾患の理解		
9 10	疾患の理解		
11 12	眼疾患をもつ患者の看護	各疾患ごとの、看護実践の基礎となる医学的知識について学ぶ	各疾患ごとの、看護実践の基礎となる知識を身に付け、看護実践できる。
13 14	眼疾患をもつ患者の看護		
15 16	【耳鼻科】 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能・症状とその病態生理	耳鼻咽喉・頸部の構造と機能を学習し、主な症状や病態生理を学ぶ。	耳鼻咽喉・頸部の構造と機能を学習し、主な症状や病態生理を理解している。
17 18	検査と治療・処置	検査内容を理解し、さまざまな検査の介助、適応疾患について学ぶ。	検査内容を理解し、さまざまな検査の介助、適応疾患について学び、必要な援助技術を身に付けている。
19 20	疾患の理解	耳鼻咽喉・頸部領域（気管・食道異物・音声障害を含む）には、どのような疾患があり、どのように診察・治療されるかを学ぶ。	耳鼻咽喉・頸部領域（気管・食道異物・音声障害を含む）には、どのような疾患があり、どのように診察・治療方法について理解している。
21 22	疾患の理解		
23 24	疾患の理解		
25 26	耳鼻咽喉疾患をもつ患者の看護	各疾患ごとの、看護実践の基礎となる医学的知識について学ぶ	各疾患ごとの、看護実践の基礎となる知識を身に付け、看護実践できる。
27 28	耳鼻咽喉疾患をもつ患者の看護		
29 30	考査		

教育内容	地域・在宅看護論	科目	地域・在宅看護論方法論Ⅲ	単位数(時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	生活する場に訪問する看護師の姿勢について学び、信頼関係形成のあり方を学ぶ。 その人らしく日常生活を過ごせるように在宅での日常生活援助技術や教育的な関わりを学ぶ。また、日常にある物品の工夫や福祉用具の活用について学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			評価方法	出席状況・授業への取り組み・ 提出物・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	在宅の場での必要な看護技術	在宅に必要な看護技術の考え方生活行為のアセスメントの視点について学ぶ。	在宅に必要な看護技術の考え方生活行為のアセスメントの視点を身に付けている。
3 4 5 6	訪問に向けた接遇と面接技術	マナー講義、初回訪問時の注意点、面接技術、信頼関係形成に必要なとなるコミュニケーションについて学ぶ。(講義・演習)	訪問時に必要な接遇マナーや信頼関係構築していくための態度を身に付けている。
7 8 9 10	福祉用具の選定基準と活用方法	物品の種類とコスト、物品と環境と利用目的の関係、対象に応じた物品の選定について学ぶ(事例検討)	福祉用具の選定基準と活用方法について理解でき、対象者に応じた適切な物品選定を理解している。
11 12	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用①	食生活・嚥下に関する在宅看護技術について学ぶ。	嚥下機能のアセスメントができ、適切なケアの実践ができる。
13 14	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用②	排泄に関する在宅看護技術について学ぶ。	排泄のアセスメントができ、適切なケアの実践ができる。
15 16	在宅における指導技術①	社会資源の活用に関する家族へ指導の実践について学ぶ。	家族への指導技術の基本を理解している。
17 18 19 20	在宅における指導技術②	社会資源の活用に関する家族へ指導の実践(事例検討 GW)事例に対する指導計画書の作成	事例に応じた、指導計画書が作成できる。
21 22	在宅における指導技術③	グループワークの発表 指導の実践を発表し合い、他者の意見を聞く	指導の実践を話合うことができ、指導に必要な知識・技術を身に付けている。
23 24 25 26	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用③	移動・移乗に関する在宅看護技術、介護予防に対する援助技術、ベッド上での体の動かし方、身近な道具を使った移動方法、1人で実施する移乗の全介助方法について学ぶ。	在宅看護に必要な基礎・基本的な知識・技術を身に付け、適切に実践できる。
27 28 29 30	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用④	家庭にある物品でできる日常生活援助技術について学ぶ。 ・自宅で行える蒸しタオルの作り方 ・背部浴 ・ケリーパッドの作り方 ・洗髪 ・更衣の介助方法(パジャマ)	家庭にある物品でできる日常生活援助技術を応用し、適切に実践できる。

教育内容	地域・在宅看護論	科目	地域・在宅看護論方法論Ⅳ	単位数 (時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	難病やターミナル期の療養者とその家族の介護状況に応じた様々な看護上の問題を学ぶ。生活への影響を考えながら支援するべき内容、看護介入の具体的な方法、評価のプロセスをイメージし、それぞれの状態に応じた看護展開を学習する。						
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			評価方法	出席状況・授業への取り組み・提出物・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	在宅における看護過程の実際	在宅看護介入時期別の看護の特徴について学ぶ。	在宅看護介入時期別の看護の特徴について理解している。
3 4	特徴的な疾病のある療養者への看護	難病疾患について学ぶ	難病疾患の看護過程の展開の考え方について実践能力を身に付けている。
5 6 7 8	神経難病の在宅看護	神経難病 (ALS)の事例の看護過程の展開について学ぶ (GW)	ALSについての疾患の理解や社会資源を活用を考えた看護計画の立案ができる。
9 10 11 12	在宅ターミナルケア	ターミナル期の事例の看護過程の展開について学ぶ (GW)	ターミナル期の心理過程や疼痛コントロール、グリーフケア、サポート体制、看取りを考えた看護計画の立案ができる。
13 14 15	認知症の在宅看護	在宅看護における認知症の事例の看護過程の展開について学ぶ (GW)	認知症の種類や症状に合わせた看護が理解でき、支援対策等社会資源の活用を考えた看護計画の立案ができる。

教育内容	老年看護学	科目	老年健康生活支援論Ⅲ	単位数(時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科2年
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護の役割を考える。</li> <li>・高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。</li> <li>・加齢に伴う主な疾病や構造の特徴を理解し、それに応じた看護や予防方法について学習する。</li> </ul>						
教科書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院			評価方法	出席状況 授業への取り組み		
	系統看護学講座 成人看護学(8) 腎・泌尿器 医学書院				提出物(ノート・レポート) 試験 小テスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1	【老年保健】 1. 老年保健・医療・福祉の場における課題 (1) 超高齢社会と社会保障 (2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 ①高齢者に関わる保健医療福祉システムの構築 ②介護保険制度の整備 ③高齢者医療費の仕組み ④多職種連携と看護活動の多様化 (3) 高齢者の権利擁護 (4) 高齢者を取り巻く社会資源 (5) 高齢者における災害時の看護 2. 泌尿器疾患の看護 (1) 泌尿器の構造と機能 (2) 症状とその病態生理 (3) 検査と治療・処置 (4) 疾患の理解 ・尿路結石症、尿路・性器の感染症 ・尿路の通過障害と機能障害 (4) 疾患の理解 ・尿路・性器の腫瘍	超高齢社会の統計的輪郭から、高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況を把握する。	超高齢社会における高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況に関心を持ち、医療・健康・福祉対策の動向や現況を理解している。
2		超高齢社会の統計的輪郭から、高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況を把握する。	超高齢社会における高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況に関心を持ち、医療・健康・福祉対策の動向や現況を理解している。
3		超高齢社会の統計的輪郭から、高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況を把握する。	超高齢社会における高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況に関心を持ち、医療・健康・福祉対策の動向や現況を理解している。
4		超高齢社会の統計的輪郭から、高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況を把握する。	超高齢社会における高齢者の健康状態や暮らし、家族等の現況に関心を持ち、医療・健康・福祉対策の動向や現況を理解している。
5		制度等の変遷に関心を持ち、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを理解する。	保健医療福祉制度等の変遷に関心を持ち、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの推進に向けた動向や現況を理解している。
6		介護保険制度等の高齢者の自立支援に向けた法律・施策や仕組みについて理解する。	介護保険制度等の高齢者の自立支援に向けたソーシャルサポートシステムや法律・施策等の仕組みや課題について理解している。
7		高齢者医療の法律・施策や仕組み、多職種連携と看護活動の多様化について理解する。	高齢者医療の法律・施策や仕組み、高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化について考え、理解している。
8		高齢者虐待等の高齢者の権利に関する問題に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	高齢者虐待等の高齢者の権利に関する問題に関心を持ち、その改善に向けて、意欲的に取り組んでいる。
9		高齢者の社会資源や災害時の看護に関心を持ち、基礎的な知識や技術を身に付け、適切な援助方法や対策を考え表現できる。	高齢者の社会資源や災害時の看護に関心を持ち、基礎的な知識や技術を身に付け、適切な援助方法や対策を考え表現できる。
10		泌尿器の構造と機能について関心を持ち、基礎的な知識を身につける。	泌尿器の構造と機能について関心を持ち、基礎的な知識を身につけている。
11		泌尿器の症状とその病態生理について関心を持ち、基礎的な知識を身につける。	泌尿器の症状と病態生理について関心を持ち、必要な知識を身につけている。
12		泌尿器の検査と治療・処置について関心を持ち、基礎的な知識を身につける。	泌尿器の検査と治療・処置について関心を持ち、基礎的な知識を身につける。
13		泌尿器の検査と治療・処置について関心を持ち、基礎的な知識を身につける。	泌尿器の検査と治療・処置について関心を持ち、基礎的な知識を身につける。
14		尿路結石症、尿路・性器の感染症等について関心を持ち、疾患の知識を身につけている。	尿路結石症、尿路・性器の感染症等について関心を持ち、疾患の基礎的な知識や適切な援助について理解している。
15		尿路の通過障害と機能障害等について関心を持ち、疾患の知識を身につけている。	尿路の通過障害と機能障害等について関心を持ち、疾患の基礎的な知識や適切な援助について理解している。
16	尿路・性器の腫瘍等について関心を持ち、疾患の知識を身につけている。	尿路・性器の腫瘍等について関心を持ち、疾患の基礎的な知識や適切な援助について理解している。	
17	検査		
18	検査		
19	検査		
20	検査		
21	検査		
22	検査		
23	検査		
24	検査		
25	検査		
26	検査		
27	検査		
28	検査		
29	検査		
30	検査		

教育内容	母性看護学	科目	女性のライフコース支援論Ⅲ	単位数(時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	マタニティサイクルの異常とその看護について理解する。 女性のライフステージ各期における異常の予防と対処方法について理解する。						
教科書	系統看護学講座 母性看護学 1 母性看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 母性看護学 2 母性看護学各論 (医学書院)			評価方法	授業への取り組み・態度、ノート、小テスト、定期試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【産科】 ハイリスク妊娠について	ハイリスク妊娠の定義、現状について理解させる。	ハイリスク妊娠の定義、現状について理解している。
3 4	妊娠に伴う内分泌の変化	妊娠の進行に伴って生じる内分泌系の変化について理解させる。	妊娠の進行に伴って生じる内分泌系の変化について理解している。
5 6	分娩時の異常	分娩の3要素に起因する異常の、病態・検査・処置について理解させる。	分娩の3要素に起因する異常の、病態・検査・処置について理解している。
7 8	産褥期の異常	産褥期にみられる正常逸脱状態について理解させる。	産褥期にみられる正常逸脱状態について理解している。
9 10	産科的診察法、用語、救急疾患	産科独自の診察方法や視点、アセスメントを行う上での注意点について理解させる。	産科独自の診察方法や視点、アセスメントを行う上での注意点について理解している。
11 12	新生児疾患について	新生児にみられる異常にはどのようなものがあるかを学ぶ。	新生児にみられる異常にはどのようなものがあるかを理解する。
13 14	妊娠期の異常	妊娠中に起こしやすい健康逸脱と、その早期発見や予防的ケアについて学ぶ。	妊娠中に起こしやすい健康逸脱と、その早期発見や予防的ケアについて理解する。
15 16	分娩期の異常	分娩期に起こりうる異常と、その処置やアセスメント項目について学ぶ。	分娩期に起こりうる異常と、その処置やアセスメント項目について理解する。
17 18	産褥期の異常	産褥期に起こる母体の器質的疾患について、健康問題をもった褥婦の看護について理解させる。	産褥期に起こる母体の器質的疾患について、健康問題をもった褥婦の看護について理解する。
19 20	新生児期の異常	健康問題をもつ新生児の看護について理解させる。	健康問題をもつ新生児の看護について理解する。
21 22 23 24	生殖補助医療の基礎と臨床 (不妊症とその治療)	妊孕性に関わる不妊という健康問題の特徴について理解させる。	妊孕性に関わる不妊という健康問題の特徴について理解している。
25 26	メンタルヘルスの問題について	妊娠期から産褥期のメンタルヘルスの重要性を理解し、看護について学ぶ。	妊娠期から産褥期のメンタルヘルスの重要性や、看護について理解する。
27 28	【婦人科】 更年期障害、骨粗鬆症	更年期・老年期女性の健康問題について理解させる。	更年期・老年期女性の健康問題について理解する。
29 30	子宮頸がん、子宮体がん、妊孕性	女性生殖器のがんの病態や検査・治療方法について学び、対象への看護について理解させる。	女性生殖器のがんの病態や検査・治療方法について学び、対象への看護について理解している。

教育内容	精神看護学	科目	精神健康生活支援論 II	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 2 年
科目の目標	心のはたらきや自己形成、精神疾患の理解を深め、家族の役割や回復・リハビリ支援を学ぶことで、精神看護の実践に必要な知識と視点を養う。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院) NANDA- I 看護診断 定義と分類 医学書院			評価方法	授業への取り組み・課題の提出内容・プレゼンテーション・グループワーク・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	心のはたらきや自己形成、精神疾患の理解を深め、家族の役割や回復・リハビリ支援を学ぶことで、精神看護の実践に必要な知識と視点を養う。	心のはたらきを生理学的、心理学的、社会学的視点から総合的に理解し、心の動きと環境の関係を多面的にとらえ、実際の生活や看護の場面に適応できる知識を身につけることができる。	心のはたらきについて、生理学的、心理学的、社会学的観点から説明することができる。 心のはたらきを単一の視点ではなく、多面的に考察し、生活や看護の場面にどのように影響を及ぼすか説明することができる。
3 4 5 6	どのようにして自己が形成されていくのかを理解し、代表的な精神療法の基本的な考え方を理解する。	自己の形成過程を理解し、代表的な精神療法の基本的な考え方を学ぶことで精神的健康の維持や回復に関する基礎的な知識を身につける。	心のしくみと人格の発達について理解し、人格にはどのような要素が含まれているかを考察することができる。 防衛機制の概念を理解し、日常生活の場や臨床場面での具体例をあげて説明することができる。
7 8	精神科疾患のあらわれ方について学び、精神看護における症状のとらえ方を理解する。	精神機能の障害であるさまざまな精神症状を学び、精神看護における症状のとらえ方を理解することができる。	精神疾患の主要な症状を理解し、症状の評価に基づき適切な看護の視点を持てるように考察することができる。
9 10	看護の基本となる人間関係についてシステム理論の観点から学び、家族のコミュニケーションや家族役割について学ぶ。	システム理論の観点から人間関係の基本を理解し、家族内のコミュニケーションや家族役割の特性を学ぶことで、対人関係の相互作用をとらえる力を養う。	システム理論の基本を理解し、家族のコミュニケーションや家族役割の特徴を踏まえて関係性をとらえ、看護に活かせる視点をもつことができる。
11 12 13 14 15 16	精神障害、精神疾患をもつ人との関係において、感情を通した自己理解と相手を尊重する姿勢を基盤とし、ケアの基本、関係のアセスメント、患者-看護師関係のしくみと対処について学ぶ。	精神障害、精神疾患をもつ患者との関係を築くために、自己理解と相手を尊重する姿勢を基盤に、適切なケアの方法を習得し、関係のアセスメントや患者-看護師関係の関係で生じる課題への対応方法を考える力を身につける。	自己理解と相手を尊重する姿勢を持ち、精神障害をもつ患者への接近方法やケアの基本、関係のアセスメント、患者-看護師関係で生じる課題への適切な対応方法について理解することができる。
17 18	精神障害をもつ人々の回復・リハビリの意義を理解し、支援方法や看護師の役割、回復を促すグループ方法について学ぶ。	精神障害をもつ人々の回復・リハビリを理解し、看護師としての支援方法やグループを活用した回復促進の方法について学ぶ。	回復・リハビリの意義と支援方法について説明ができ、看護師として回復を促進するアプローチやグループの活用方法を理解することができる。
19 20	精神科におけるレクリエーションの意義を理解し、患者の回復支援や社会機能の向上に役立つレクリエーション活動の方法を学ぶ。	精神科におけるレクリエーション役割を理解し、患者の回復や社会機能の向上を促進する方法を学ぶ。	レクリエーション活動の意義を理解し、授業での体験を通じてその効果を実感し、臨地実習で活かせる視点を持つことができる。
19 20 21 22	精神障害をもつ人が受診から入院に至る過程、入院形態について学び、患者や家族が直面する障壁と、それに対する適切な支援方法を考える。	精神障害をもつ人が受診から入院に至る過程や入院形態を理解し、患者や家族が直面する障壁を認識した上で、必要な支援方法について学ぶ。	受診から入院に至る過程や入院形態について理解し、患者や家族が直面する障壁とそれに対する支援方法を考察することができる。
23 24 25 26	心と身体をつながり、精神疾患にともなう身体的ケア、抗精神病薬の有害反応と対処法、精神科の身体合併症について学ぶ。	心と身体の関係性を理解し、精神科治療における身体的ケアと合併症への対応方法を学ぶ。	心と身体をつながり理解し、精神科治療における身体的ケアや合併症に適切に対応できる知識を持つことができる。
27 28	精神科実習で得た学びを整理し、後輩への指導に生かす視点を学ぶ。	精神科実習の経験を整理し、精神科実習に必要な視点と態度を深める。	精神科実習で得た学びを整理し、重要な視点や注意点を明確に説明し、内容をわかりやすくまとめられる。
29 30	精神看護専門看護師の役割と活動内容を学び、資格取得の意義を考える。	精神看護専門看護師の役割と活動内容を理解し、自身の将来の進路にどのように活かせるか考え、キャリアプランにつなげる。	精神専門看護師の役割と精神看護への関わりを理解し、将来の進路選択に役立つ視点を持つことができる。

教育内容	精神看護学	科目	精神健康生活支援論III	単位数(時間)	1単位(30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	精神障害についての基本的な知識を学び、精神障害者の看護について理解する。 1. 精神障害の発症に影響する要因、その症状と診断、治療について理解する。 2. 精神看護に必要な判断と援助技術について理解する。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学①精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学②精神看護の展開 (医学書院)			評価方法	出席状況 授業への取り組み 提出物 試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【精神疾患】 症状を含む器質性精神障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
3 4	精神作用物質使用による精神行動の障害 1. アルコール依存症 2. 薬物依存症	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。離脱症状や患者への対応について説明できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。離脱症状や患者への対応について説明できるか。
5 6	統合失調症	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。服薬指導や拒薬への対応について説明できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。服薬指導や拒薬への対応について説明できるか。
7 8	気分障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。うつ病の典型的な症状や注意すべき観察項目について説明できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。うつ病の典型的な症状や注意すべき観察項目について説明できるか。
9 10	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
11 12	生理的障害および身体的要因に関連した行動障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
13 14 15	パーソナリティ障害 性同一性障害	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
16 17 18	発達障害およびその他の児童期の精神疾患 てんかん	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解できる。	疾患の特徴、症状、診断、治療について理解しているか。
19 20	臨床検査 1. 脳波 2. 知能検査・人格検査	精神医学における臨床検査について理解できる。	精神医学における臨床検査について理解しているか。
21 22	【精神看護】 精神医療の地域移行、精神障害者支援の原則、学校・職場での精神保健と精神看護について学ぶ。	精神障害者の地域生活支援の原則と社会制度を理解し、社会生活の場での精神保健に関する知識を深める。	精神障害者の地域生活支援の原則や社会制度についての理解し、社会生活における精神保健の重要性を認識することができる。
23 24	精神科看護病院の課題と役割、入院形態の違いについて、事例から人生ストーリーの思考を学ぶ。	精神看護の役割を理解し、入院制度の違いを整理し、事例背景を多角的に考察できるようにする。	精神科看護の課題・役割、入院形態の違いを説明でき、事例から今後の生活ストーリーを考察できる。
25 26	身体と心の関連、精神疾患の回復段階に応じた身体ケア、抗精神病薬有害反応と身体ケア、身体合併症と看護を学ぶ。	心身の関連を理解し、精神科で行う身体ケア、身体合併症の看護を学ぶ。	心身のつながり、精神科ケア、睡眠障害、薬の有害反応、身体合併症、終末期ケアについて理解できる。
27 28	患者の人権と治療のバランスに基づく安全の考え方、リスクマネジメント、自殺・暴力・無断離院などの緊急事態の予防と対応を学ぶ。	精神科における安全確保の考え方を理解し、行動制限・通信面会・隔離等の基準、自殺・暴力リスクへの予防対応を説明できるようにする。	安全・人権の視点、行動制限基準、緊急事態(自殺・暴力・離院)の予防と対応について理解できる。
29 30	リエゾン精神看護の役割と活動内容医療リーム内での連携方法について学ぶ。	リエゾン精神看護の役割を理解し、医療チームでの連携方法を学ぶ。	リエゾン看護について乃役割と活動内容を理解し、医療チームでの連携に活かせる実践的な能力を養う。

教育内容	精神看護学	科目	精神健康生活支援論Ⅳ	単位数(時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	精神医療の歴史や社会的背景、法制度を理解し、精神科看護に必要な知識と看護の役割、また災害時のメンタルヘルスケアについて学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院) NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院			評価方法	授業への取り組み・課題の提出内容・プレゼンテーション・グループワーク・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2 3 4	精神疾患・障害の歴史、日本の精神医療の変遷、社会・文化の影響、精神科看護に関わる法制度を学ぶ。	精神医療の歴史や社会的背景を理解し、精神疾患と社会・文化とのつながりを踏まえた看護の視点を養う。	精神疾患・障害の歴史、日本の精神医療の変遷、社会・文化の影響、関連法制度について理解することができる。
5 6 7 8	地域精神保健の動向、援助原則、社会資源、学校・職場のメンタルヘルスを学ぶ。	地域で暮らす精神障害者を支える視点と、必要な制度・支援を理解し、説明できるようにする。	地域精神保健の概要・支援原則・社会資源・メンタルヘルス支援を理解し、事例から適切に説明ができる。
9 10	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて学ぶ。	感情労働の重要性を理解し、看護実践での感情管理と共感疲労への対処方法を学び、組織への影響を考える。	感情労働や共感疲労の概念を理解し、看護実践において感情管理を適切に行う方法を知り、実践に活かそうとすることができる。
11 12	災害時のメンタルヘルスケアと看護について学ぶ。	被災者支援の基本を理解し、災害時の心のケアについて多面的に考察できる力を養う。	災害の影響や支援方法について説明ができ、心のケアの意義や課題を論理的に考察することができる。
13 14	事例を通じて精神疾患の特性や患者の心理を理解し、看護のあり方について学ぶ。	精神看護の視点を養い、事例をもとに患者の心理や看護の課題について考察する力を身につけることができる。	精神看護の基本的知識を理解し、事例をアセスメントし看護のあり方について考察し、積極的に学ぶ姿勢を持って取り組むことができる。
15	考査	知識の定着を図り、基礎的な理解を深める。	精神看護に関する基本的な知識を理解し、適切に表現することができる。

教育内容	看護の統合と実践	科目	看護の統合と実践Ⅰ	単位数(時間)	1単位 (15時間)	学年	専攻科2年
科目の目標	看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。医療安全のための基礎的知識が理解できる。 チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップが理解できる。						
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院			評価方法	出席状況、授業への取り組み 提出物(ノート・レポート)、試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	<b>【看護管理】</b> 看護とマネジメント	看護におけるマネジメントの概要について理解させる。看護のマネジメントが必要とされる場について理解させる。	看護におけるマネジメントの概要について理解している。看護のマネジメントが必要とされる場について理解している。
3 4	ケアのマネジメントと看護職の機能、患者の権利、医療安全管理	看護職のケアのマネジメントについてその過程と機能について理解させる。患者の権利を守るための概念について理解させる。	看護職のケアのマネジメントについてその過程と機能について理解している。患者の権利を守るための概念について理解している。
5 6	看護サービスのマネジメント(情報のマネジメント、キャリア開発)	看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解させる。	看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解している。
7 8	看護をとりまく諸制度	看護や看護職の定義や法・精度について理解させる。看護教育制度および継続教育とマネジメントの関連性について理解させる。	看護や看護職の定義や法・精度について理解させる。看護教育制度および継続教育とマネジメントの関連性について理解している。
9 10	看護職の職業倫理 考査	看護業務と職業倫理について理解させる。看護実践の場と医療制度のしくみについて理解を深めることができる。	看護業務と職業倫理について理解している。看護実践の場と医療制度のしくみについて理解を深めることができる。
11 12	<b>【チーム医療】</b> チーム医療について(意義、看護職の役割、必要とされる看護職の能力)	チーム医療の目的や意義、看護師の役割について理解させる。	チーム医療の目的や意義、看護師の役割について理解している。
13 14	チームの中で求められるメンバーシップ、リーダーシップ	チームの中で働く上で必要なリーダーシップ、メンバーシップについて理解させる。	チームの中で働く上で必要なリーダーシップ、メンバーシップについて理解している。
15 16	チーム医療を円滑にすすめていくために必要な力について	チーム医療の講義や演習を受けて、チームで働く上での自己の課題を明確にする。	チーム医療の講義や演習を受けて、チームで働く上での自己の課題を明確にし、レポートとしてまとめている。

教育内容	看護の統合と実践	科目	看護の統合と実践 II	単位数 (時間)	1 単位 (15時間)	学年	専攻科 2 年
科目の 目標	看護専門職として災害時にケア活動の実践をするうえで基盤となる災害看護の基本的な知識や考え方を学ぶ。 グローバル社会における広い視野に基づき、国際援助や開発協力における国際看護活動について学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践 3 災害看護学・国際看護学 (医学書院)			評価 方法	出席状況 授業への取り組み 提出物 (レポート) ペーパーテスト		
時間	学習内容		ねらい		評価規準		
1 2	【災害看護】 災害の歴史、災害の定義、災害の種類について  災害の種類・疾病構造、法律について		災害看護の理念と歴史について災害に必要となる基本的な概念を理解する。  災害の種類と災害が健康及ぼす影響について理解する。		災害看護の理念と歴史について災害に必要な基本的な概念を理解することができる。  災害の種類と災害が健康に及ぼす影響について理解することができる。		
3 4	災害サイクルと看護活動について 災害時のトリアージや、避難所について (グループワーク・プレゼンテーション)		被災者の心理過程を考え、災害各期の看護活動を理解する。  災害時におけるトリアージの概念とその方法、避難所について理解をする。		被災者の心理課程と看護支援について考え、看護活動を理解することができる。  災害時におけるトリアージの概念とその方法、避難所について理解できる。		
5 6	被災病院における発災害直後の看護活動について (演習)		発災直後の被災地で求められる看護の役割と優先度判断について理解し、状況に応じた対応を考えられるようにする。		トリアージ演習等で、発災直後の看護活動について状況に応じた判断と対応を考察できている。		
7 8	災害活動や災害看護の現状について		災害活動をされている講師の講義を聴講し、災害活動の現状について理解する。		講義を聴講し、災害活動の現状について理解する。		
9 10	【国際看護】 世界の健康問題の現状について		世界の健康問題の現状について学ぶ。		世界が抱えている健康問題の現状について理解している。		
11 12	国際機関への協力について (WHO、ICN、JICAなど)		国際協力の実際について様々な機関とその活動内容について学び、国際的な視野を持つ事の大切さを学ぶ。		国際協力の実際について様々な機関とその活動内容について学び、国際的な視野からの看護師の役割を理解している。		
13 14	各国の医療の現状について調べる (GW)		国の特徴や文化・保健指標・医療水準等について学ぶ		各国の医療の現状や衛生状況について理解し、国際協力における看護師の役割について理解することができる。  また、世界からみる日本の医療水準についても理解することができる。		
15 16	各国の医療の現状について調べる (GW プレゼン)						

教育内容	看護の統合と実践	科目	看護研究	単位数(時間)	1単位(30時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	看護問題を科学的に解決できるよう研究的態度について学ぶ。 臨地実習で根拠に基づき実践した看護過程を振り返り看護研究としてまとめあげる。						
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 第一版(医学書院) NANDA-I 看護診断 定義と分類(医学書院)			評価方法	出席状況 授業への取り組み(関心・意欲・態度) 提出物(論文)		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	科学的根拠に基づく看護過程のまとめ	臨地実習で自分が行った看護の看護過程について振り返り, 科学的看護についての研究のまとめ方の基本を学ぶ。	臨地実習で自分が行った看護の看護過程について振り返り, 科学的看護についての研究のまとめ方について理解しているか。
3 4	研究計画の立案	研究計画書を作成する意義と目的を理解し,研究計画書を作成することができる。	研究計画書を作成する意義と目的を理解しているか。研究計画書を作成できるか。
5 6	文献検索	文献の種類と読むべき優先順位を理解する。	文献の種類と読むべき優先順位を理解しているか。
7 8	文献検索	文献検索を行い,整理できる。	研究に関心を持ち,文献検索を行い整理できるか。
9 10 11 12 13 14	研究論文の構成	臨地実習で自分が行った看護の事例を振り返り,専門知識や技術を応用しながら,行った看護実践の意味や課題を明確にする。	研究に関心を持ち,実践的に取り組もうとしているか。 文献を根拠とした分析を行い,自分の看護実践を論理的に振りかえることができているか。 自分の行った看護について科学的な思考や観的な見方ができるか。
15 16	プレゼンテーションの演習	研究成果をわかりやすくまとめることができる。	研究を発表するための様々なツールの活用方法や発表時の態度などを理解しているか。
17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	看護研究発表	研究成果をわかりやすく発表できる。他者の発表を聞くことにより, 研究に必要な態度や知識を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究内容について</li> <li>・研究の目的と結果が一致しているか</li> <li>・研究の意義が述べられているか</li> <li>・看護に重点がおかれていたか</li> <li>・内容は系統立ってよく整理されていたか</li> <li>・発表のための勉強は十分であったか</li> <li>・科学的立場が守られていたか</li> <li>・発表資材の準備はどうか</li> <li>・結果から得られた考察であるか</li> <li>・参考文献を生かした考察であるか</li> <li>●発表の仕方について</li> <li>・研究の態度はどうか</li> <li>・言語、音声はどうか</li> <li>・誤字はないか</li> <li>・聞き手によく分かるように話したか</li> <li>・発表時間は守られていたか(15分以内)</li> <li>・発表資材はよく活用されていたか</li> <li>・質問に対して適切に処置したか</li> </ul>
29 30	看護研究冊子作成	研究成果をまとめることができる。	研究成果をまとめることができるか。

教育内容	看護の統合と実践	科目	統合ゼミ	単位数(時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科2年
科目の目標	臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、卒後の看護業務遂行のイメージができるようにする。						
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術II 医学書院			評価方法	出席状況、授業への取り組み、提出物、試験、小テスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	1. 医療安全、医療事故防止 (1) 医療事故の防止	医療事故防止のために、看護師として必要となる知識、技術、態度を身に付ける。	医療事故防止の必要性を理解し、看護師として必要となる知識、技術、態度を身に付けている。
3 4	(2) 誤薬の防止	誤薬事故防止のために、看護師として必要となる知識、技術、態度を身に付ける。	誤薬事故防止のために必要なことについて主体的に考え、看護師として必要となる知識、技術、態度を身に付けている。
5 6	(3) 薬液希釈、酸素ポンベの残量計算	薬液希釈、酸素ポンベの残量計算等の事故防止のための知識、技術、態度を身に付ける。	課題に意欲的に取り組み、薬液希釈、酸素ポンベの残量計算等の事故防止のための知識、技術、態度を身に付けている。
7 8	(4) 採血時の注意、酸素ポンベ等の扱い方	医療事故が起きやすい、採血や酸素ポンベ等を扱う時に必要な基礎的能力を習得する。	医療事故が起きやすい、採血や酸素ポンベ等を扱う時に必要な基礎的な知識を身に付けている。
9 10	2. 状況下での看護技術の演習 (1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ	看護師として必要な、輸液ポンプやシリンジポンプの扱い方を習得する。	看護師として必要な、輸液ポンプやシリンジポンプの扱い方や事故防止のための注意点を理解しているとともに関連する技術を身に付けている。
11 12	(2) 患者の搬送法	災害発生時などに必要な患者の搬送法の知識や技術等を習得する。	災害発生時などに必要な、患者の搬送法の知識や技術等を身に付けている。
13 14	(3) 多重課題への対応	臨床現場でよく見られる多重課題への対応力や、臨床判断能力を身に付ける。	臨床現場でよく見られる多重課題への対応力や、臨床判断能力を身に付けている。
15 16	(4) 急変時の対応	患者の急変時への対応を行う知識、技術や判断力を身に付ける。	患者の急変時への対応を行う知識、技術や判断力を身に付けている。
17 18	(5) 状況下での看護	臨床でよく見られる場面を設定して、必要な看護についてグループで学びを深める。	臨床でよく見られる場面を設定して、主体的かつ協働的に取り組み、看護に関する課題を発見し、解決する力を身に付けている。
19 20	3. 家族看護	家族看護の意義と看護の対象である家族を理解し、家族看護の理論や方法について理解する。	家族看護の意義と看護の対象である家族を理解し、家族看護の理論や方法について理解している。
21 22	4. 総合演習 (1) 看護師に必要な知識・技術の統合、輸液中の患者の寝衣交換、アンプル・バイアルからの薬液準備等	看護師に必要な知識・技術を身に付け、看護実践能力を高める。	看護師に必要な知識・技術を身に付け、看護実践能力を身に付けている。
23 24	(2) 看護師として必要な看護技術の演習	看護師に必要な知識・技術を身に付け、臨床看護技術や看護実践能力を高める。	看護師に必要な知識・技術を習得し、臨床看護技術や看護実践能力を身に付けている。
25 26	5. 医療事故シミュレーション演習(誤薬)	医療事故シミュレーション体験・リフレクションを通して誤薬をおこしやすい状況を知る。	医療事故シミュレーション体験・リフレクションを通して誤薬をおこしやすい自己の傾向や状況や対処方法を理解している。
27 28	5. 医療事故シミュレーション演習(誤薬)		
29 30	医療事故シミュレーションの振り返り 考査	医療事故シミュレーションのリフレクションを行い、学びを深める。	医療事故シミュレーションのリフレクションから、学びを深めている。

教育内容	地域・在宅看護論	科目	地域・在宅看護論実習	単位数 (時間)	3単位 (90時間)	学年	専攻科 2年
科目の 目標	在宅で生活する療養者とその家族の健康レベルと生活環境の全体像をとらえ、療養生活の維持向上を促す看護実践能力と態度を養う。また、地域包括ケアシステムにおけるチームの一員としての看護の位置づけと役割を理解する。						
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			評価 方法	出席状況、実習への取り組み、レポート、記録物、実習評価表(自己・教員)		

	学習内容	ねらい	評価規準
90	<p>実習事前レポート</p> <p>実習オリエンテーション</p> <p><b>【実習施設】</b></p> <p>1) 訪問看護ステーション (2日)</p> <p>2) 保健所 (2日)</p> <p>3) 保健センター (1日)</p> <p>4) 保育所 (2日)</p> <p>5) 介護老人保健施設・特別養護老人ホーム (3日)</p>	<p>同行訪問し、在宅で療養する人々の実態を知り、訪問看護がどのように在宅療養を支えているのか、また、社会資源の活用や他職種との連携方法について学ぶ。</p> <p>保健所の機能の概要を知り、地域住民の健康上の問題を知り、保健活動を通して看護の役割について学ぶ。</p> <p>保健センターの機能の概要を知り、地域住民の健康上の問題を知り、保健活動を通して看護の役割について学ぶ。</p> <p>幼児の身体的・心理的・社会的な成長発達の状態を捉え、地域における保育所の役割・現状について学ぶ。</p> <p>施設で生活する高齢者の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、高齢者をささえる職種の役割・機能が分かり、看護の調整的役割について学ぶ。</p>	<p>実習に必要な基礎基本的な知識・技術を身に付けている。</p> <p>実習の目的・目標・実習方法について理解している。</p> <p>在宅療養者と家族を支える訪問看護ステーションの機能や訪問看護師の役割について理解している。また、社会資源の活用や他職種連携について理解している。</p> <p>保健所の機能の概要を知り、地域住民の健康上の問題を知り、対象者が必要とする看護の役割や基礎基本的な技術を身に付けている。</p> <p>保健センターの機能の概要を知り、地域住民の健康上の問題を知り、保健活動を通して看護の役割について理解している。</p> <p>幼児の発達段階に応じて求められる看護について理解し、適切に実践する技術を身に付けている。</p> <p>施設で療養する対象者に関わる問題点を専門的知識を活用し考え、判断でき、看護過程の展開ができる。</p>

教育内容	臨地実習	科目	成人看護学実習Ⅰ	単位数(時間)	2単位 (90時間)	学年	専攻科1、2年
科目の目標	1 成人各期の発達段階と特徴を踏まえて、対象が理解できる。 2 急性期にある対象者の身体的・心理的・社会的側面を把握し、根拠に基づく病気の経過に応じた看護計画を立案することができる。 3 急性期にある対象者に必要な倫理的配慮したうえで、習得した基礎看護技術を基に、個別的看護実践と評価ができる。 4 継続看護の必要性を理解し、保健医療のなかで看護の役割を理解する。 5 急性期にある対象者に実践した看護援助を振り返り、自己課題を述べるができる。						
教科書	各病棟、各科に対応した教科			評価方法	出席、実習への取り組み、レポート、記録物、実習評価表		
時間	学習内容		ねらい		評価規準		
90	1. 周手術期、あるいは慢性疾患の急性増悪期の状況にある対象を1名受け持ち、その対象を通して看護を学ぶ。 2. 受け持ち患者の看護計画を立案し、実践、評価する。 3. 実習中はカンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める。 4. 生活者として急性期の状況にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を理解する。 5. 苦痛や不安を軽減するための援助、医療器機の使用、集中治療室の環境を理解する。 6. 医療従事者間における協働の重要性を理解する。		1. 急性期にある受け持ち患者を通して、急性期の看護について考えることができる。 2. 受け持ち患者の看護計画を立案し、実践、評価できる。 3. カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深めることができる。 4. 生活者として急性期の状況にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を理解することができる。 5. 苦痛や不安を軽減するための援助、医療器機の使用、集中治療室の環境を理解することができる。 6. 医療従事者間における協働の重要性を理解することができる。		1.急性期にある受け持ち患者を通して、身体的・精神的・社会的側面に配慮して急性期の看護について考えることができる。 2. 受け持ち患者の看護計画を臨床現場で患者と関わったり、指導者から助言を受けたりして患者の個別性を考慮して立案し、実践、評価できる。 3. カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深めることができる。 4. 生活者として急性期の状況にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を理解できる。 5. 苦痛や不安を軽減するための援助、医療器機の使用、集中治療室の環境を実際の臨床現場を見て理解できる。 6. 医療従事者間における協働の重要性を受け持ち患者を支援する多職種連携やカンファレンスなどから理解できる。		

教育内容	臨地実習	科目	成人看護学実習Ⅱ	単位数(時間)	2単位 (90時間)	学年	専攻科1、2年
科目の目標	1 成人各期の発達段階と特徴を踏まえて、対象が理解できる。 2 慢性の経過をたどる対象者に対して、身体的・心理的および社会的側面について把握し、根拠に基づく病気の経過に応じた看護計画を立案することができる。 3 慢性の経過をたどる対象者に対して、倫理的配慮をしたうえで習得した基礎看護技術を基に、個別的看護実践と評価ができる。 4 継続看護の必要性を理解し、保健医療のなかで看護の役割を理解する。 5 慢性の経過をたどる対象者に実践した看護援助を振り返り、自己課題を述べるができる。						
教科書	各病棟、各科に対応した教科			評価方法	出席、実習への取り組み、レポート、記録物、実習評価表		
時間	学習内容		ねらい		評価規準		
90	1.患者の身体的健康障害について学ぶ。 2.疾病・治療・検査が患者の身体的・精神的・社会的にどのような影響を及ぼしているか把握する。 3.患者・家族の気持ちや意思を尊重し、援助的関係を築く。 4.患者の心身の状況やセルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立の援助を行う。 5.患者および家族に必要なサポート・社会資源を知り、対象を支える看護師と多職種役割を理解する。 6.実習メンバーの一員としての自己の役割と他者との関係を考えながら行動する。 7.慢性期にある患者、リハビリテーションを必要とする患者、がん治療を受ける患者の特徴とその看護について理解する。 8.看護職者としてふさわしい実習態度を身につける		1.患者の身体的健康障害についてわかる。 2.疾病・治療・検査が患者の身体的・精神的・社会的にどのような影響を及ぼしているか把握することができる。 3.患者・家族の気持ちや意思を尊重し、援助的関係を築くことができる。 4.患者の心身の状況やセルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立の援助を行うことができる。 5.患者および家族に必要なサポート・社会資源を知り、対象を支える看護師と多職種役割を理解できる。 6.実習メンバーの一員としての自己の役割と他者との関係を考えながら行動することができる。 7.慢性期にある患者、リハビリテーションを必要とする患者、がん治療を受ける患者の特徴とその看護について理解できる。 8.看護職者としてふさわしい実習態度を身につけることができる。		1. 患者の身体障害について、検査データやカルテなどの情報や患者との関わりから理解できる。 2. 疾病・治療・検査が患者の身体的・精神的・社会的にどのような影響を及ぼしているかを考えることができる。 3. 患者・家族の気持ちや意思を尊重し、個別性に配慮して援助的関係を築いていくことができる。 4. 患者の心身の状況やセルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立の援助を考え、実施できる。 5. 患者および家族に必要なサポート・社会資源を知り、対象を支える看護師と多職種役割を理解できる。 6. 実習メンバーの一員としての自己の役割と他者との関係を考えながら行動できる。 7.慢性期にある患者、リハビリテーションを必要とする患者、がん治療を受ける患者の特徴とその看護について考えることができる。 8.看護職者としてふさわしい実習態度を身につけることができる。		

教育内容	臨地実習	科目	老年看護学実習	単位数 (時間)	2単位 (90時間)	学年	専攻科1・2年
科目の 目標	1 老年期の特徴と健康障害との関連性について理解する。 2 対象の健康状態により生じる問題を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施し評価できる。 3 人生の終末期における老人の生命と人格を尊重する態度を養う。						
教科書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院			評価 方法	出席状況 実習への取り組み レポート、記録物、実習評価表（自己・病棟）		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	1 健康レベルに応じた看護実践 （健康な生活の保持増進時、社会復帰期、慢性期、疾病の予防と早期発見、終末期、検査・治療に伴う看護） 2 機能障害時の看護実践 （呼吸・循環、栄養代謝、防衛機能、内部環境調節機能、感覚機能、運動機能、言語機能、性・生殖機能） 3 周手術期の看護 （手術前、手術当日、手術後、救命救急時、急性期、回復への援助、術後合併症、終末期、検査・治療に伴う看護）	・老年期の患者の身体的、心理的、社会的特徴としての予備能力の低下を考慮に入れた援助ができる。 ・老年期の患者の治療処置援助と看護の実際を学ぶ。 ・老年期の患者に頻度高く見られる主要症状を理解し、看護援助ができる。 ・生活リズムをつけ、日常生活動作の維持拡大ができるよう援助する。 ・在宅看護へ向けて背景を考慮した導入計画と家族を含めた退院への援助を学ぶ。	・老年期・高齢社会における加齢、生活、保健に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、高齢化現象、及び、精神的社会的発達から老年期にある患者を看護する実践的な態度を身に付けている。 ・老年期の患者の看護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、的確に表現している。 ・老年期・高齢社会にある患者の看護に関する基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する力を身に付けている。 ・ライフサイクルの視点から、高齢化や加齢現象、および精神的社会的状況から老年期における看護援助の基本的知識を身に付け、看護の意義や役割を理解している。

教育内容	臨地実習	科目	小児看護学実習	単位数(時間)	2単位(90時間)	学年	専攻科1・2年
科目の目標	1 小児の成長・発達、健康障害、家族の状況を理解する。 2 小児を1人の個として尊重し、成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる。 3 対象の健康状態により生じる問題を、成長・発達を踏まえて把握し、個別性に応じた看護を計画、実施、評価できる。 4 対象を取り巻く医療、保健、福祉の連携の中で、看護の役割について理解する。						
教科書	系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論 (医学書院)			評価方法	出席状況・実習への取り組み・態度・提出物・実習記録・評価表		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	【小児看護の特徴】 病棟の特徴	病棟の構造や設備、小児科ならではの特徴を学ぶ。	・小児病棟の特性を、成人との違いを考えながら理解している。
	【看護過程の展開】 受持ち患児の看護過程の展開	受持ち患児の状態をアセスメントし、発達段階に応じたケアを実践する。 家族を含めた看護過程を意識する。	・受持ち患児とコミュニケーションが図れ、必要な情報収集ができる。 ・収集した情報をアセスメントし、看護上の問題を明確にして、優先順位を考慮することができる。 ・受持ち患児の状態や発達段階に合わせて、看護計画を立案できる。 ・看護問題を解決するために、積極的に患児と関わることができる。 ・臨地指導者や教員に相談できている。 ・家族を含めてアセスメントし、援助が実践できる。 ・子どもを1人の個人としてとらえ、尊重した態度で接している。 ・カンファレンスで、自分の看護を振り返ることができる。 ・他のメンバーの受持ち患児についての理解を深めている。
	【知識・技術】 小児看護における日常生活援助の実施 小児看護における基本的な技術を実施	環境整備や食事・排泄・睡眠・清潔・更衣・移動・遊びなど、発達段階に合わせた援助方法を学ぶ。 バイタルサイン測定や診察の介助、与薬の介助や検査・処置などの介助を通じて、小児看護における基本的な技術を身につける。 小児科における主な疾患と看護を理解する。	・発達段階に応じた食事、排泄、睡眠、清潔、更衣の援助ができる。 ・子どもにとっての遊びの意義を理解し、発達段階に応じた遊びを提供できる。 ・バイタルサイン測定や診察の介助、検査や処置の介助において、発達段階に応じたプレパレーションが実践できる。 ・積極的に実習に取り組んでいる。 ・入院しているさまざまな疾患について学び、児の状態に応じた看護を考えることができる。
	【小児科外来】 小児科外来での実習	小児科外来での実習を通じて、小児科外来に来る子どもの特徴や看護師の役割を理解する。 地域と病院の連携、および保健・福祉の連携について学ぶ。	・小児科外来の特徴を理解している。 ・小児科外来での看護師の役割を理解し、積極的に実習に取り組んでいる。 ・適切な感染予防対策を実践できる。 ・予防接種の援助を実施し、意義や援助方法を理解する。 ・健康診査の援助を通じて、安全な身体計測の方法を学び、成長・発達をアセスメントできる。 ・地域や保健、福祉との連携について考えることができる。

教育内容	臨地実習	科目	母性看護学実習	単位数(時間)	2単位 (90時間)	学年	専攻科1・2年
科目の目標	1 妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護の必要性を理解し、基本的な援助、保健指導ができる。 2 妊娠・分娩・産褥期における母子関係について理解を深め、援助の必要性を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施、評価できる。 3 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉との諸機関との関係について理解する。						
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論			評価方法	出席、実習への取り組み、レポート・記録物、実習評価表(自己・病棟)		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	<b>【母性看護の特徴】</b> 実習病棟の構造・設備・特徴について入院している対象の特徴 褥婦の看護に必要な情報、看護診断の実際について、褥婦の看護に必要な観察および技術	病棟や対象の特殊性について知り、褥婦の看護に必要な情報収集ができ、看護診断の実際を理解する。	病棟や対象の特殊性について学び、褥婦への看護に必要な情報を収集できる。 褥婦の看護診断の実際、褥婦の看護に必要な観察点および技術について理解している。
	<b>【看護過程の展開】</b> 受け持ち褥婦・児に対して、個別性に応じた看護過程を展開する。	受け持ち褥婦・新生児をウェルネスの視点でとらえ、個別性に応じた看護の必要性を理解する。それぞれが実践した看護についてカンファレンスを行うことで、自らの看護を振り返るとともに、学びの共有を行う。	受け持ち褥婦と適切なコミュニケーションをとり、アセスメントができる。 受け持ち褥婦・児の健康を維持・促進する看護計画を立案できる。 看護上の問題をあげ、具体的な目標を立てることができる。 看護問題を解決するために、褥婦・児の状態に応じた援助が適切に実践できている。 カンファレンスを行い、自分の看護について振り返ることができる。
	<b>【知識・技術】</b> 母性看護における基礎技術 妊産褥婦・新生児の基本的な援助 母性外来の特徴(妊婦健康診査・保健指導・助産外来等)	母性看護領域独自の看護や、妊産褥婦・新生児への基本的な援助について理解する。 母性外来の特徴を理解し、妊産褥婦の基本的な援助・保健指導を学ぶ。	妊産褥婦・新生児の特徴を考慮し、正常に経過するための看護が実践できる。 母子相互作用を理解し、対象の状況に応じた援助を考え、実践できる。 母性外来の特殊性を学び、妊婦健康診査や妊娠週数に応じた保健指導、助産外来の意義について理解している。

教育内容	臨地実習	科目	精神看護学実習	単位数(時間)	2単位(90時間)	学年	専攻科 2年
科目の目標	精神疾患や障害が日常生活に与える影響を理解し、セルフケア能力を評価しながら「その人らしさ」を尊重して援助する。また、必要な社会資源を把握し、治療的対人関係を構築する知識と技術を養い、看護師の役割を理解する。さらに、疾患の各期の特徴を把握し、継続看護を考え、多職種連携を理解し、精神看護に向けて主体的に学び自己の課題を明確にする。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院) 医学書院精神看護学Ⅰ・Ⅱ NOUVELLE HIROKAWA NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 医学書院			評価方法	出席 実習への取り組み 事前学習内容 記録内容・提出状況 実習評価(自己・病棟)		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	1. 実習事前学習	配属病棟ごとに提示された実習事前学習を行い、基礎知識を習得する。	実習展開に必要な内容を理解し、実習に臨めるようにしているか。
	2. 実習オリエンテーション	実習施設の特性や安全管理を理解し、倫理的配慮をもって患者と関わりながら、学びを深める姿勢を身につける。言葉や行動の持つ意味や背景を考えながら、患者の日常生活に参加することができる。	実習施設のルールや安全管理を理解し、倫理的配慮を踏まえた関わりができるとともに、学びを深める姿勢が見られている。
	3. 実習展開 (1) 病棟実習 作業療法 レクリエーション SST 日々の患者との関わり	精神科医療の特性や各種療法の目的を理解し、病棟実習や患者との関わりを通じて、適切な支援のあり方を学ぶとともに、プロセスレコードを活用して自身の関わりを振り返りを通して自己洞察力を高める。	精神科看護の実践を通して理解を深め、患者の状況に応じた関わりができるとともに、プロセスレコードを活用して自身の関わりを振り返り、自己洞察を深める姿勢が見られる。
	(2) 受け持ち患者の看護展開 ①受け持ち患者を持ち、看護過程を展開する ②カンファレンス	受け持ち患者の看護を通じて、精神科看護の展開方法を学び、カンファレンスへの参加を通じて患者の状況を多角的に捉え、適切な看護を検討する力を養う。	受け持ち患者の看護を実践し、根拠に基づいた看護展開ができるとともに、カンファレンスでの情報共有や意見交換を通じて、患者の状況を多面的に考える姿勢が見られる。
(3) 臨床講義 認定看護師、薬剤師、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士  (4) 精神障害者生活訓練施設、地域活動支援センター見学	多職種の役割や精神科医療・福祉の支援体制を理解し、講義や施設見学を通じて、精神障害のある人への包括的な支援のあり方を学ぶ。	多職種の専門性や支援の実際を理解し、精神障害のある人の生活や社会復帰を支えるための視点を持つことができる。	

教育内容	臨地実習	科目	看護統合実践実習	単位数(時間)	2単位(90時間)	学年	専攻科2年
科目の目標	人間の理解と専門的知識を統合し、複数の対象のニーズに対応した看護が医療チームの中で展開できる。						
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術II 医学書院	評価方法	出席状況、実習への取り組み、レポート、記録物、実習評価表(自己・病棟)				

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	<p>1 複数患者の援助の優先順位と時間配分</p> <p>(1) 受け持ち患者の病状変化による治療方針の変更、援助計画の実施と修正</p> <p>(2) 援助実施の良否、優先度の判断</p> <p>(3) 適切な時間での実施</p> <p>(4) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整</p> <p>(5) 看護の実践と評価・効果の判定</p> <p>(6) 適時・適切な人への報告調整・病棟スタッフの指導のもとで、複数患者を受け持ち看護を展開する。</p> <p>2 看護管理の実践</p> <p>(1) コーディネーターの役割と業務の実践①医師への報告・連絡調整②チーム及びスタッフへの連絡調整③病院内外の部門との連絡調整</p> <p>(2) チームメンバー間の協力・行動調整</p> <p>①病院組織における看護管理</p> <p>②病棟管理者の役割と業務</p> <p>・リーダー業務・看護管理業務は見学実習とする。・一勤務帯を通じた実習を行う。</p> <p>3 既習の知識、技術、態度の統合</p> <p>(1) 今までの実習の中で経験したケアの深化</p> <p>(2) 未経験のケアへの準備と実施</p> <p>①チェックリストにより未経験の看護技術を明確化</p> <p>②明確になった自己課題についての実施計画立案</p> <p>(3) 日々の看護実践の自己評価</p> <p>(4) 流動的環境の中での実践</p>	<p>・病棟スタッフの指導のもと複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。</p> <p>・看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。</p> <p>・看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解することができる。</p> <p>・既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。</p> <p>・これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。</p>	<p>・看護管理・病棟管理に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組み、既習の知識を統合し患者を看護する実践的な態度を身に付けている。</p> <p>・複数患者の受け持ち時や一人の患者に必要な複数の看護の優先順位を考えたとき、流動的環境の中で判断し看護を実践できる力を身に付けている。その成果や看護の要点についての的確に表現することができる。</p> <p>・既習の基本的な技術を統合し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する技能を身に付けている。</p> <p>・複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性や看護管理の実際等について理解でき、既習の知識と統合し、自己の課題を明確にすることができる。</p>